



Photo 1 種牛の部の審査に臨む出品者、2 肉牛の部の審査の様子（8月2日）、3 種牛の部の審査の様子（8月6日）、4 審査会場に出品牛を引き入れる小林秀峰高校農業クラブ、5 審査の様子を見守る関係者、6・7 審査の直前までブラシやハサミで毛並みを整える関係者

小林からは4部門6頭が日本一に挑む 全国和牛能力共進会の県代表が決定

8月2日、6日に第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けた、宮崎県代表牛決定検査が小林地域家畜市場で開催され、県代表9部門23頭が出そろいました。

国内でも屈指のハイレベルな戦いの中、小林市からは4部門6頭（特別区1頭を含む）が県代表に選ばれました。

全国和牛能力共進会は、10月6日～10日の5日間、鹿児島県霧島市（種牛の部）と南九州市知覧町（肉牛の部）で開催され、全国41道府県から計459頭が出品予定。

今後は、代表となった農家だけでなく、サポートする農家や市、JAの関係者などのチームが一丸となって日本一を目指します。

宮崎県代表に決定した出品者と出品牛（名号）・敬称略

◆第2区（若雌の1）

もりたまあき 森田正明「いりす184」、もりたゆうと 森田悠斗「やすこ」

◆第6区（総合評価群）

たけのうちとしひろ 竹之内利弘「松297」、有限会社 ぼぼほくじょう 馬場牧場「美華満天」

◆7区（脂肪の質評価群）

有限会社馬場牧場「弥土52の3」

◆特別区（高校及び農業大学の部）

小林秀峰高校「まひろ」

全国和牛能力共進会ってどんな大会？

全国の優秀な和牛を5年に一度、一堂に集め、改良の成果やその優秀性を競う大会です。

全共で優秀な成績を収めることが地域の和牛ブランド力向上につながることから、全国の和牛関係者にとって最も重要な大会となっています。

1区	若雄単品区。種雄牛候補の造成が目的。
2区 3区	若雌単品区。母牛候補になる若い雌牛を審査。2区は月齢14～17カ月未満、3区は月齢17カ月～20カ月未満を審査。
4区	3頭セットで出品。3代以上にわたって県内で生産され、品位・繁殖性に優れるなど、地域の特色ある雌牛集団が形成されているかを審査。
5区	母-子-孫娘の1セットで、繁殖・産肉能力の高さが受け継がれ、世代を追うごとに改良の成果があるかを審査。
6区	同じ種雄牛を父に持つ、母牛候補の若い雌牛4頭と、去勢肥育牛3頭をセットで審査。繁殖性と産肉性の両方が優れる必要があり、産地の総合力が問われる「花の区」。
7区	今大会で新設。風味や口だけに影響するオレイン酸などの含有量等で脂肪の質を審査。
8区	24カ月未満の去勢肥育牛の単品区。39道府県が出品する激戦区。
特別区	今大会から正式区に格上げ。高校・農業大学校を対象とした、和牛生産の担い手育成を目的とした出品区。雌牛1頭の評価と取り組み発表の評価で審査。